

# 日本食品衛生学会学術貢献賞

年度	氏名	(所属機関名)	題目
平成14	広門雅子	(東京都立衛生研究所)	天然添加物の分析法及び品質評価に関する研究
15	長南隆夫	(北海道立衛生研究所)	食品中の残留化学物質の改良分析法に関する研究
	平野 進	(森永商事(株))	アフラトキシン汚染落花生粒選別方法に関する研究
16	村上りつ子	(茨城県衛生研究所)	茨城県産二枚貝の麻痺性貝毒に関する研究
	秋山由美	(兵庫県立健康環境科学研究所)	残留農薬の高感度分析法の開発と実態調査
17	田端節子	(東京都健康安全研究センター)	カビ毒の食品汚染実態とその制御に関する研究
18	田中康夫	(横浜市衛生研究所)	食品から検出された農薬等の分析物に関する食品衛生学的研究
19	角田光淳	(関東学院大学)	食品中の化学物質の分析とその応用
	平原嘉親	(神戸検疫所)	輸入食品中の残留農薬等迅速一斉分析法の開発に関する研究
20	上野英二	(愛知県衛生研究所)	農作物中残留農薬の多成分分析法に関する研究
	門間公夫	(東京都健康安全研究センター)	食品中の遺伝子組換え作物の検知に関する研究
21	小沼博隆	(東海大学)	食品の細菌汚染の実態とその検出法および対策に関する研究
	藤川 浩	(東京農工大学)	食品汚染微生物の増殖予測に関する数学モデルの構築および応用
22	池上幸江	(大妻女子大学)	食品中に含まれる環境汚染物質の代謝に及ぼす栄養条件の影響に関する研究
	穂山 浩	(国立医薬品食品衛生研究所)	未承認遺伝子組換え食品およびアレルギー誘発物質の検知法の開発と評価に関する研究
24	木村 凡	(東京海洋大学)	食品衛生微生物検査へのReal time定量PCR法の応用
	斉藤貢一	(星薬科大学)	食品中のアミン類のオンカラム蛍光誘導体化LC分析法の開発に関する研究
25	笠原義正	(山形県衛生研究所)	植物性自然毒による食中毒の解明および毒成分の分析法確立に関する研究
	工藤由起子	(国立医薬品食品衛生研究所)	腸炎ビブリオの魚介類での汚染実態の解明および生残性の解析に関する研究
26	藤田和弘	((一財)日本食品分析センター)	蜂産品等の食品中に残留する抗生物質分析法の開発と信頼性確保に関する研究
28	坂 真智子	((一財)残留農薬研究所)	加工および調理による食品試料中残留農薬の濃度変化に関する研究
	望月直樹	(横浜薬科大学)	LC-MS/MSを用いたカビ毒分析法の開発および酒類製造中のカビ毒の挙動に関する研究
令和元	根本 了	(国立医薬品食品衛生研究所)	食品中の有害化学物質および残留農薬の分析法開発とその応用に関する研究
2	林谷秀樹	(東京農工大学大学院)	食品における病原性エルシニア菌の生態の解明と高感度迅速検出法の開発
3	大西貴弘	(国立医薬品食品衛生研究所)	粘液胞子虫による食中毒に関する研究
	堤 智昭	(国立医薬品食品衛生研究所)	食品中のダイオキシン類の分析法開発と摂取量推定に関する研究
4	朝倉 宏	(国立医薬品食品衛生研究所)	カンピロバクターの汚染動態と遺伝性状に基づく制御に向けた研究
	石井里枝	(埼玉県衛生研究所)	食品中の残留有害物質の分析法開発と信頼性確保に関する研究